

国選定 重要文化的景観

# 宇治の文化的景観



宇治市



平安の夢とお茶香る

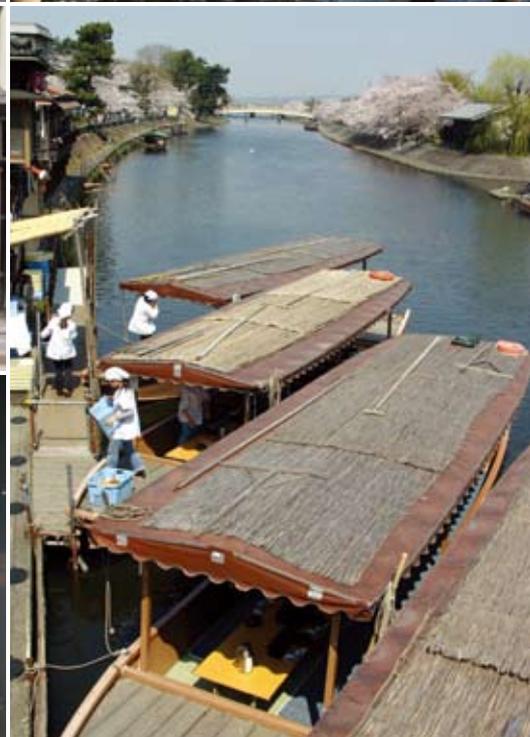
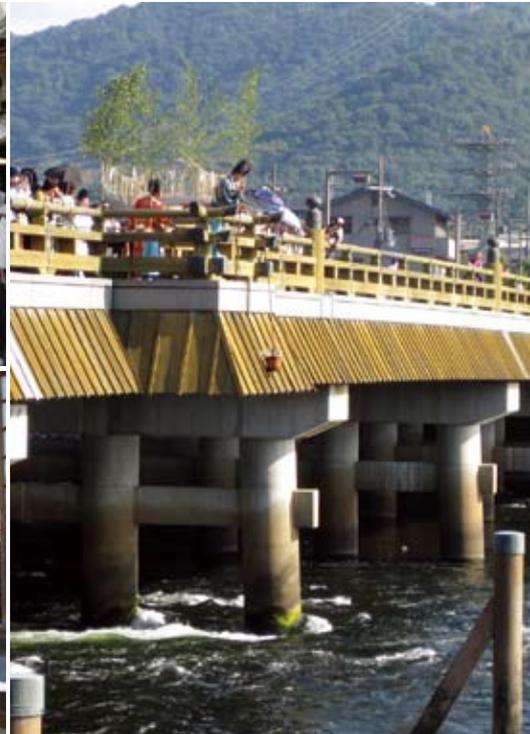
## 宇治の文化的景観

「文化的景観」とは、人々の生活や生業と自然風土とが時の流れの中で調和し、かたち作られてきた風景のことです。日本各地の農山漁村あるいは都市や町場には、その土地ならではの自然や風土と寄り添って生活する人々の姿があります。この土地ごと伝えられた、豊かで特色ある風景を未来へと継承してゆくために文化的景観の制度が創設されました。

本市の伝統的地区である宇治は、宇治川の自然景観を骨格に、兩岸に歴史的な文化財と町並が伝えられ、多くの観光客を迎えています。そもそもこの土地の開発は古く、古墳時代にさかのぼることが記紀に示されています。急流宇治川に橋が架けられたのは飛鳥時代。平安時代には貴族によってまちづくりが行われ、都市として歩み出しました。中世になると宇治茶が名声を博し、貴族が創りあげたまちにお茶の香りが重なりました。

そして今、歴史が積層する宇治の市街地には茶生産や伝統文化が息づき、周囲には覆をかける独特の茶園が点在するなど、豊かな歴史と伝統産業が重層する個性的な都市景観が広がっています。

平成21年2月、美しい自然と歴史的な市街地、そして宇治茶の伝統を継承する「宇治の文化的景観」が、わが国民の生活や生業の理解のために特に重要な景観地として、都市で初めての「重要文化的景観」に選定されました。



# 時が積み重なる風景

悠久の時と自然と人々の活動の重層が風景を作った



■ 宇治の近代的発展には明治29年の奈良鉄道の開通や大正15年の日本レイヨン宇治工場建設が大きく影響しました。

茶業の町に新たな産業が加わり近代的な建築も建てられ始めました。



■ 江戸時代は宇治茶の名声が確立した時代です。

通りにはお茶の製造に関わる宇治茶師たちの家屋がたくさん建ち並び宇治を特徴付けていました。

この風景は今に良く伝えられています。



■ 宇治にお茶栽培が伝えられたのは鎌倉時代のこととされます。

室町時代に茶生産は本格化し、茶園に浮かぶような宇治の町の景観ができあがりました。独特な覆下栽培も発達しました。

今に継承される町中の茶園にその面影をみることができます。



■ 平安時代、宇治は自然景観美から貴族の別荘地となりました。特に1052年の平等院創建をきっかけに基盤目道路が建設され貴族邸宅が建てられました。これらの道路は今に伝えられています。

また南北朝時代には宇治橋通りが新たに施設され三角形の町ができあがりました。



■ 急流宇治川に最初の橋が架けられたのは646年のこと。

以来、宇治橋は宇治のランドマークとして源平の宇治橋合戦はじめ様々な歴史事件に登場してゆきます。



■ この地を最初に拓いた人たちの遺跡が市街地の発掘で見つかっています。時代は古墳時代前期。

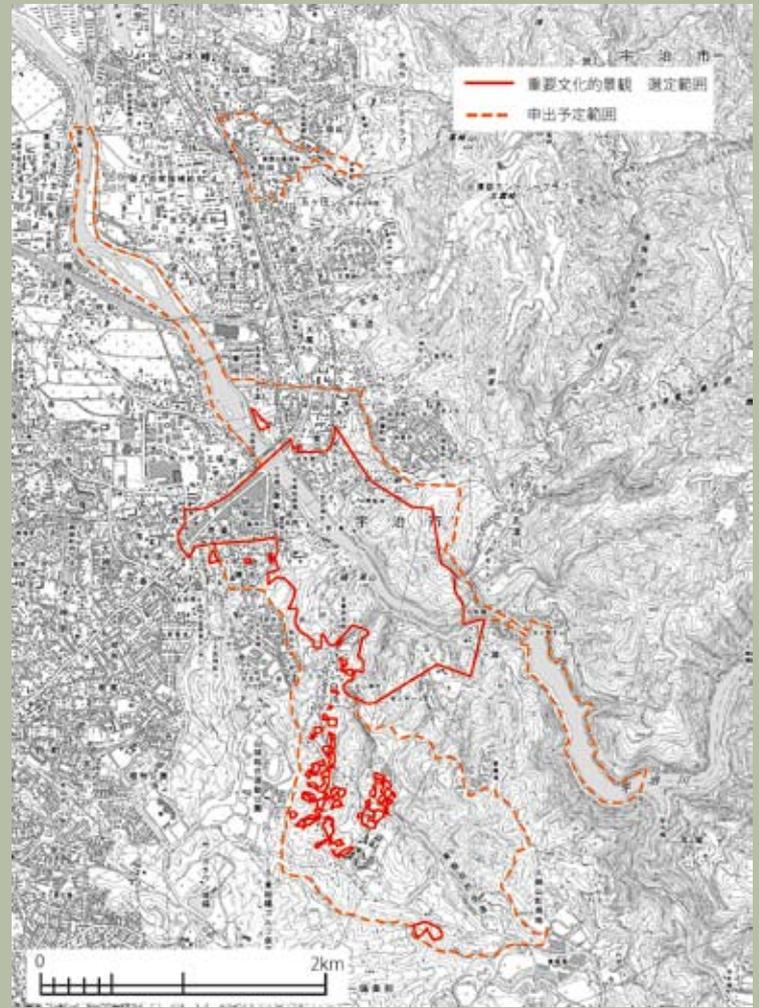
朝鮮半島からの渡来人たちが宇治の開発に力を振るったことが土器から分かりました。記紀が伝え宇治の地主神もである菟道稚郎子皇子の伝説と重なる時代のことです。

# 宇治の文化的景観の概要

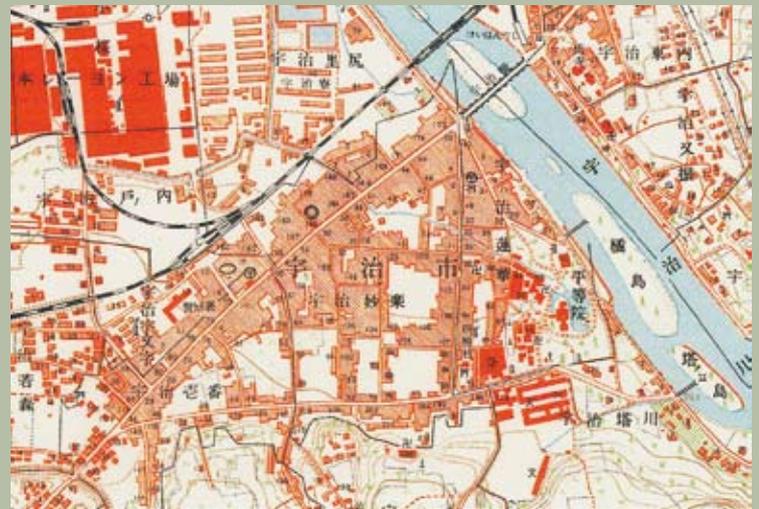
■ 平成16年の文化財保護法改正で新たに「文化的景観」が文化財の種類に加われました。この制度は、景観法が定める景観計画区域等によって守られている文化的景観から、特に重要なものを国が「重要文化的景観」に選定し価値化と支援を行うものです。

■ 宇治市では景観法に基づく景観計画で市域全体を景観計画区域とし、特に重要な地域は景観計画重点区域とすることになっています。この景観計画の下に、宇治を特徴づける自然・文化遺産と伝統産業が凝縮し景観計画重点区域でもある宇治市街地及び周辺の合計228.5ヘクタールを重要文化的景観に選定申出をし、平成21年2月12日に文部科学省より選定告示を受けました。

■ 文化的景観の制度は、地域が受け継いできた歴史や文化を継承しつつ、未来を開拓してゆくためのものです。今後は全国への積極的な情報発信、景観重要構成要素の保全・継承や整備などに取り組みつつ、里山に茶園が広がる白川地区や煎茶文化発信地の黄檗地区、また宇治川流域の残りの部分についても計画的に追加の申出を行ってゆきたいと考えています。



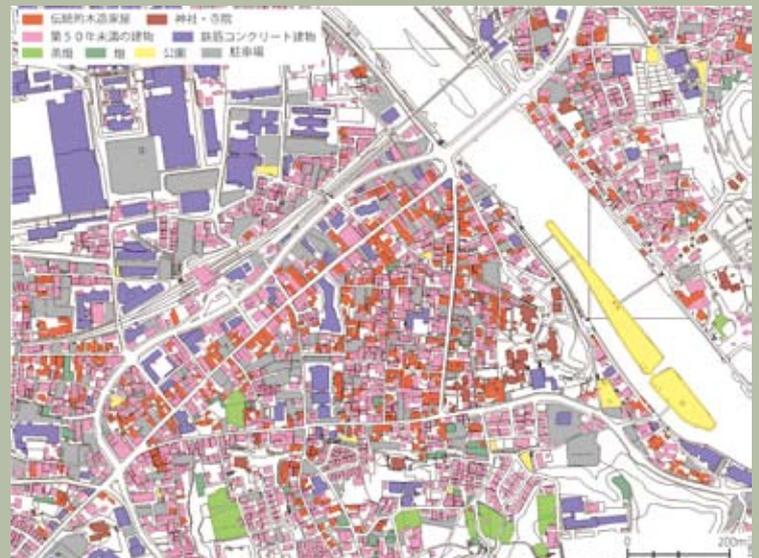
重要文化的景観の選定範囲と今後の申出予定範囲



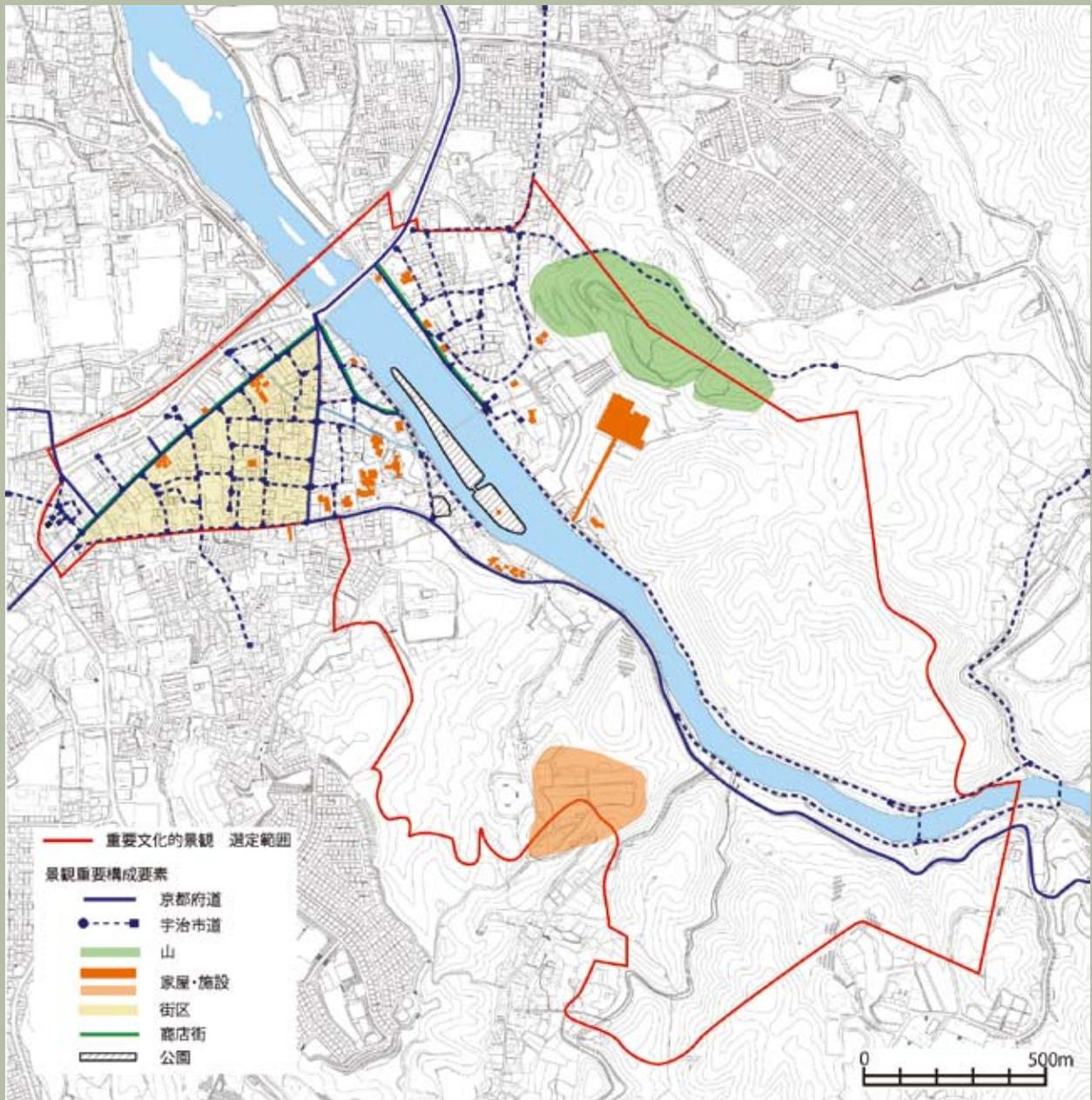
昭和26年頃の宇治の町



宇治の町に継承される平安時代の道・中世の道



現在の宇治の町の利用状況

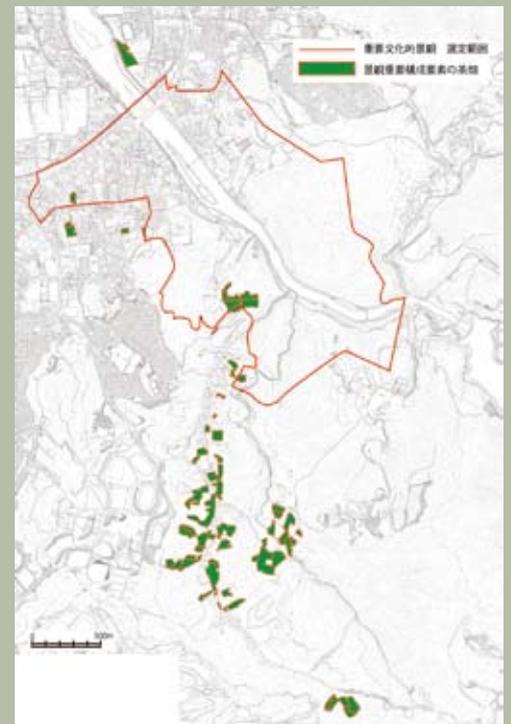


重要文化的景観の選定範囲と景観重要構成要素

## ■ 景観重要構成要素

重要文化的景観の選定申出にあたっては、文化的景観を形成する重要な構成要素(景観重要構成要素)を記載することになっています。この景観重要構成要素とは文化的景観をかたち作っている様々な要素のうち、本質的な価値を担っているものです。たとえば建物や構造物では、形やデザインが独特や典型であったり、技術や素材などが個性的であったりするものです。文化的景観の制度は、景観を構成する諸要素の変化を受けとめる動態保存を前提とする中で、いわば個性を支える景観重要構成要素の保全と継承に努めることで、文化的景観の価値を維持し、持続的に地域を発展させてゆくことを目指しています。

宇治の文化的景観の場合は、宇治川・井川の2河川、宇治橋通り・県通り・本町通りなど域内53路線の府道と市道、平等院や宇治上神社など13社寺、宇治橋通商店街・平等院表参道商店街・宇治源氏タウン銘店街の3商店街、茶や近代化に特徴的な家屋10棟、宇治と白川の茶畑をはじめ、仏徳山や朝日山、琴坂、宇治橋、宇治公園、京都府茶業研究所、遺跡、街区など13種91件の景観重要構成要素を特定しています。



景観重要構成要素 (茶畑)

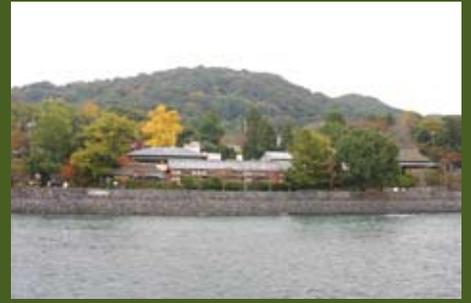
# 主な景観重要構成要素



宇治川と宇治橋三の間



宇治公園



仏徳山と朝日山



興聖寺の琴坂



平等院



宇治上神社



宇治橋通りと商店街



平等院表参道と商店街



あさぎり通りと商店街



県通り



本町通り



伍町通り



旧京都府茶業会館



茶師の家屋



井川



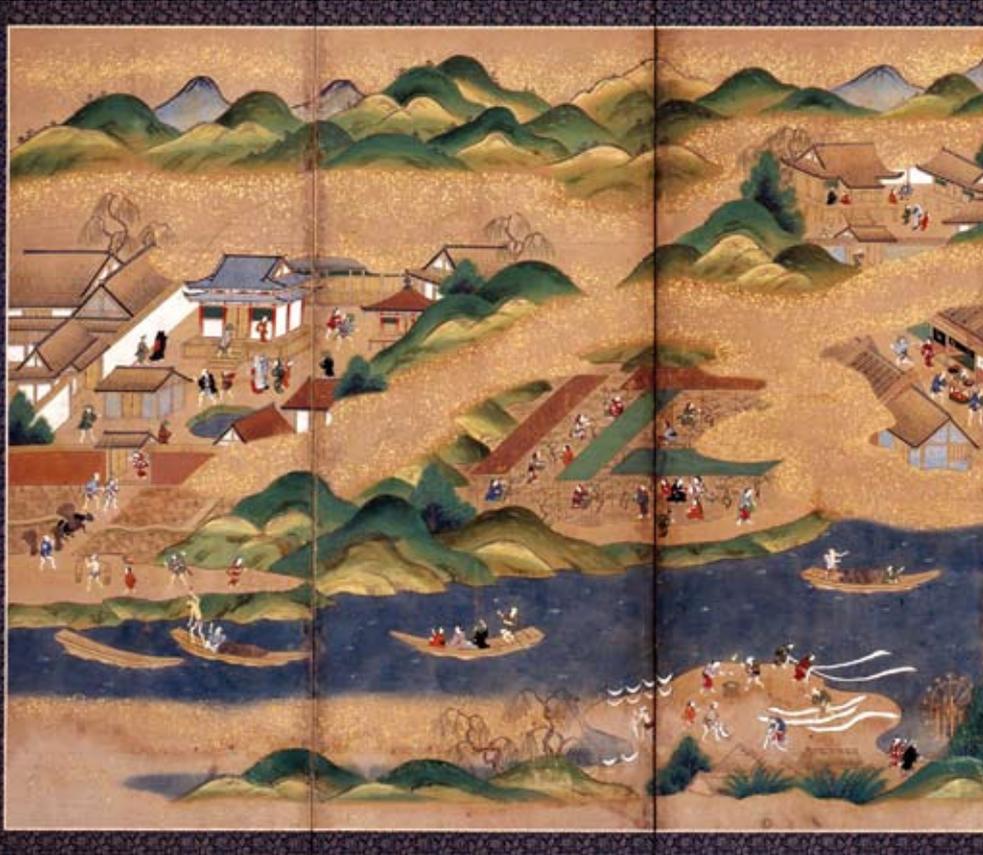
京都府立茶業研究所



宇治地区の茶畑



白川地区の茶畑



左半分

「宇治川両岸名所図」  
(個人蔵)

この名所図は、宇治橋を中ほどに上流の平等院から下流の萬福寺までの範囲を画面とし、宇治川両岸の景色を軸に、覆下茶園、柴舟、木綿さらし、水車、遊覧船、宇治橋三の間、茶店、塔の島、亀石、扇の芝、川岸の山吹や松や柳、いく組みの宴会客など江戸時代の宇治のイメージが余すことなく描き込まれています。



右半分

宇治市歴史まちづくり推進課

平成22年3月14日発行

〒611-8501 京都府宇治市宇治琵琶33番地